

平成26年度

芦原温泉上水道財産区水道事業会計  
決算審査意見書

あわらし市監査委員



あ 監 委 第 7 5 号  
平成 2 7 年 8 月 1 7 日

あわら市長 橋 本 達 也 様

あわら市監査委員 高 橋 憲 治

あわら市監査委員 笹 原 幸 信

平成 2 6 年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された平成26年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算について審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出する。



## 平成26年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計歳入歳出決算審査意見

### 第1 審査の対象

平成26年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算

### 第2 審査の期間

平成27年7月10日から平成27年8月4日まで

### 第3 審査の方法

審査に当たっては、決算報告書及びその付属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係部局から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した

### 第4 審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその付属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は総じて適正であると認められた。

## 第1 業務実績について

給水状況は前年度に比べて、給水戸数が10戸増加し2,141戸となり、給水人口は総人口が減少している中10人増加し2,994人となっている。

年間総配水量は4,112m<sup>3</sup>増加し121万1,607m<sup>3</sup>となった。また、年間有収水量は、3,149m<sup>3</sup>増加し115万2,907m<sup>3</sup>となり、有収率は前年度に同様95.2%となった。

なお、主な業務実績は次表のとおりである。

### 主 な 業 務 実 績

区 分		平成25年度	平成26年度	増減値	増減率
普及 状況	総 人 口 (A)	29,529 人	29,300 人	△ 229 人	△ 0.8 %
	給 水 戸 数	2,131 戸	2,141 戸	10 戸	0.5 %
	給 水 人 口 (B)	2,984 人	2,994 人	10 人	0.3 %
	普 及 率	100.0 %	100.0 %	0 ポイント	0.0 %
年間総配水量 (C)		1,207,495 m <sup>3</sup>	1,211,607 m <sup>3</sup>	4,112 m <sup>3</sup>	0.3 %
年間有収水量 (D)		1,149,758 m <sup>3</sup>	1,152,907 m <sup>3</sup>	3,149 m <sup>3</sup>	0.3 %
一日配水能力 (E)		14,150 m <sup>3</sup>	14,150 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	0.0 %
一日最大配水量 (F)		4,807 m <sup>3</sup>	4,950 m <sup>3</sup>	143 m <sup>3</sup>	3.0 %
一日平均配水量 (G)		3,308 m <sup>3</sup>	3,333 m <sup>3</sup>	25 m <sup>3</sup>	0.8 %
導送配水管延長 (H)		31,059 m	31,124 m	65 m	0.2 %
有 収 率 (D/C)		95.2 %	95.2 %	0.0 ポイント	0.0 %
施 設 利 用 率 (G/E)		23.4 %	23.6 %	0.2 ポイント	0.8 %
負 荷 率 (G/F)		68.8 %	67.3 %	△ 1.5 ポイント	△ 2.2 %
最 大 稼 働 率 (F/E)		34.0 %	35.0 %	1.0 ポイント	3.0 %
配水管使用効率 (C/H)		38.9 %	38.9 %	0.1 ポイント	0.1 %

## 第2 予算執行について

### 1 収益的収入

26年度の収益的収入は、予算額 1億7,367万円 に対し決算額は 1億7,565万8千円 で、198万8千円（1.1%）の増となっている。

#### 収益的収入予算決算対照表

（単位：千円、%）

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 水道事業収益	173,670	175,658	1,988	1.1
1 営業収益	166,296	168,118	1,822	1.1
2 営業外収益	7,374	7,540	166	2.3

（注） 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 1,209万7千円を含む。

### 2 収益的支出

26年度の収益的支出は、予算額 1億6,561万2千円 に対し決算額は 1億6,264万3千円で、執行率 98.2% となっており、296万9千円 の不用額を生じている。

#### 収益的支出予算決算対照表

（単位：千円、%）

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 水道事業費用	165,612	162,643	2,969	98.2
1 営業費用	159,908	157,039	2,869	98.2
2 営業外費用	2,872	2,872	0	100.0
3 特別損失	2,741	2,732	9	99.7
4 予備費	91	0	0	

（注） 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 711万2千円を含む。

### 3 資本的収入

26年度の資本的収入は、予算額 444万1千円 に対し決算額は 461万2千円 で、17万1千円（3.9%）の増となっている。

#### 資本的収入予算決算対照表

（単位：千円/、%）

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 資本的収入	4,441	4,612	171	3.9
1 工事負担金	311	310	△ 1	△ 0.3
2 他会計負担金	670	630	△ 40	△ 6.0
3 共済金	3,460	3,672	212	6.1

（注） 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 2万1千円を含む。

#### 4 資本的支出

26年度の資本的支出は、予算額 4,330万5千円 に対し決算額は 4,132万1千円 で、執行率95.4% となっており、198万4千円の不用額を生じている。

#### 資本的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 資本的支出	43,305	41,321	1,984	95.4
1 建設改良費	43,305	41,321	1,984	95.4
(1) 取水設備改良費	4,000	3,996	4	99.9
(2) 配水設備改良費	23,883	22,468	1,415	94.1
(3) 事務費	15,422	14,857	565	96.3

(注) 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 203万3千円を含む。

なお、資本的収支において、資本的収入額が資本的支出額に不足する額 3,670 万 9 千円は、当年度分損益勘定留保資金 2,874 万 4 千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 201 万 2 千円及び繰越利益剰余金処分額 595 万 3 千円で補てんしている。



### 第3 経営成績について

#### 1 経営成績の概況

26年度の損益計算書を前年度と比較すると次表のとおりである。

#### 損益計算書前年度比較表

(単位：千円、%)

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
営業収益	159,413	156,021	△ 3,392	△ 2.1
給水収益	157,994	154,398	△ 3,596	△ 2.3
受託工事収益	138	208	70	50.7
その他営業収益	1,281	1,415	134	10.5
営業費用	149,247	149,988	741	0.5
原水及び浄水費	80,102	79,229	△ 873	△ 1.1
配水及び給水費	5,871	3,965	△ 1,906	△ 32.5
受託工事費	71	91	20	28.2
総係費	27,240	29,982	2,742	10.1
減価償却費	33,960	35,009	1,049	3.1
資産消耗費	852	777	△ 75	△ 8.8
その他営業費用	1,151	935	△ 216	△ 18.8
営業利益	10,166	6,033	△ 4,133	△ 40.7
営業外収益	845	7,540	6,695	792.3
受取利息及び配当金	269	275	6	2.2
長期前受金戻入	-	7,042	7,042	皆増
雑収益	576	223	△ 353	△ 61.3
営業外費用	3	0	△ 3	皆無
雑支出	3	0	△ 3	皆無
経常利益	11,008	13,573	2,565	23.3
特別損失	65	2,671	2,606	4,009.2
過年度損益修正損	65	1,219	1,154	1,775.4
その他特別損失	-	1,452	1,452	皆増
当年度純利益	10,943	10,902	△ 41	△ 0.4
前年度繰越利益剰余金	50,282	61,225	10,943	21.8
当年度未処分利益剰余金	61,225	72,127	10,902	17.8

□については、26年度の地方公営企業会計制度の改正に伴い、26年度に新たに振替を行った見直し項目である。

営業収益は、前年度に比べて 339 万 2 千円 (2.1%) 減少し、1 億 5,602 万 1 千円となった。これは主に、給水収益が 359 万 6 千円 (2.3%) 減少したことによるものである。

営業費用については、1 億 4,998 万 8 千円であり、74 万 1 千円 (0.5%) の増であった。

これは主に、配水及び給水費が前年度に比べ 190 万 6 千円 (32.5%) 減少したが、総係費で 274 万 2 千円 (10.1%) 増加し、減価償却費についても 104 万 9 千円 (3.1%) 増加しているためである。

また、営業収益から営業費用を控除した営業利益は 603 万 3 千円となり、前年度に比べて 413 万 3 千円 (40.7%) 減少している。

営業外収益は、前年度に比べて 669 万 5 千円 (792.3%) 増加し、754 万円となった。

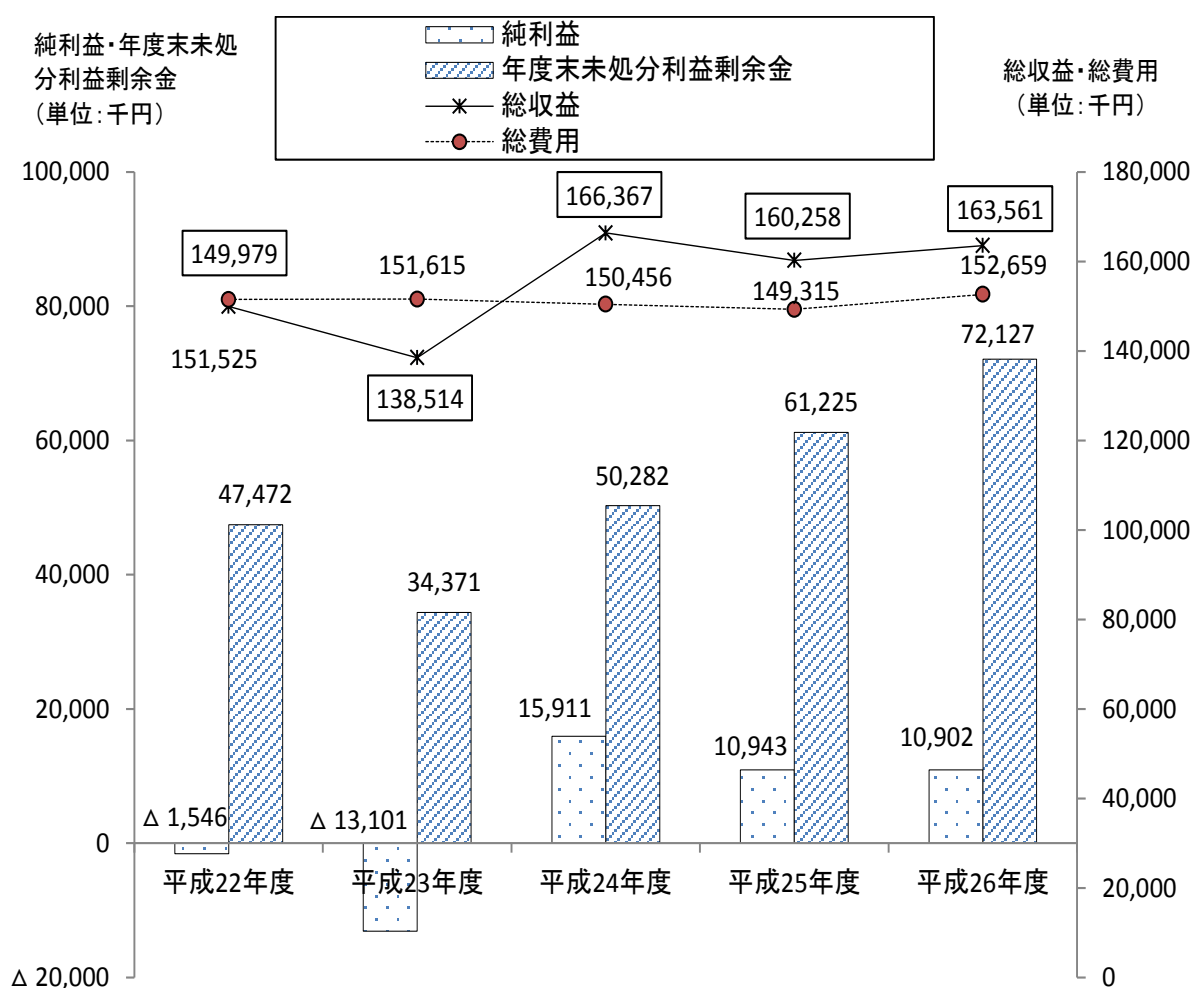
営業利益に営業外収益及び営業外費用を加減した経常利益は、1,357 万 3 千円の黒字となった。

特別損失は、前年度に比べて 260 万 6 千円 (4009.2%) 増加し、267 万 1 千円となった。これは、過年度損益修正損で法人の不納欠損処理を行ったことと、地方公営企業会計制度の改正に伴い、特別損失の中にその他特別損失 (引当金) が増加したことによるものである。

経常利益から特別損失を控除した純利益は、1,090 万 2 千円の黒字となったものの前年度に比べて 4 万 1 千円 (0.4%) 減少した。

なお、当年度末処分利益剰余金は前年度に比べて 1,090 万 2 千円 (17.8%) 増加し、7,212 万 7 千円となった。

過去 5 年間の収益費用の推移は、次のとおりである。



## 2 性質別費用

特別損失以外の費用を性質別に前年度と比較すると次表のとおりである。

### 費用性質別前年度比較表

(単位：千円、%)

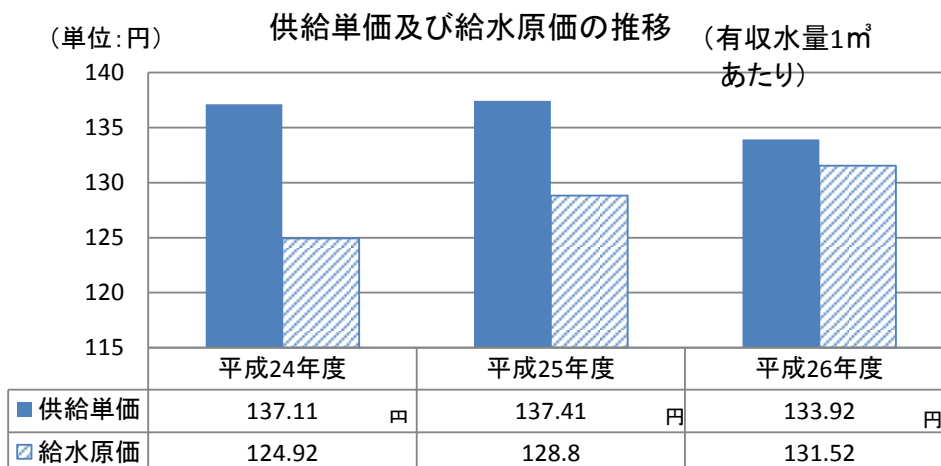
区 分	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
人 件 費	20,798	21,608	810	3.9
賃 金	0	0	0	0.0
備 品 消 耗 品 費	884	499	△ 385	△ 43.6
委 託 料	4,824	5,257	433	9.0
賃 借 料	1,497	1,443	△ 54	△ 3.6
修 繕 費	4,434	2,610	△ 1,824	△ 41.1
動 力 費	5,809	5,681	△ 128	△ 2.2
補 償 費	1,869	1,869	0	0.0
報 償 費	454	443	△ 11	△ 2.4
ペットボトル販売原価	1,151	935	△ 216	△ 18.8
受 水 費	67,616	67,616	0	0.0
有形固定資産減価償却費	33,727	34,776	1,049	3.1
引当金(給与関係)	-	1,908	-	皆増
そ の 他	6,187	5,343	△ 844	△ 13.6
合 計	149,250	149,988	738	0.50

費用合計は、738万円（0.5%）増加し、1億4,998万8千円となった。

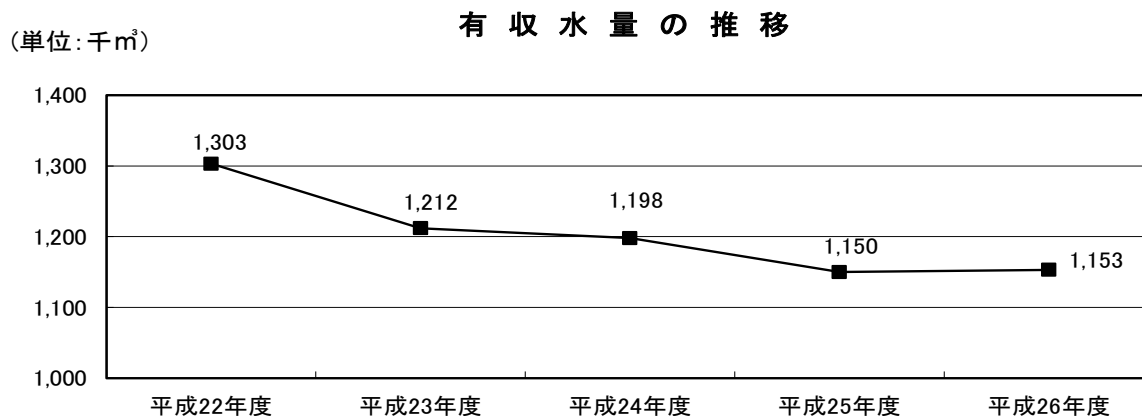
費用を性質別に見ると、前年度に比べ、備品消耗品費が38万5千円（43.6%）、修繕費が182万4千円（41.1%）減少しペットボトル水「財産区物語」の販売減少（前年度より約17.7%の減）に伴い、その販売原価が21万6千円（18.8%）減少した。しかしそれに対し、平成26年度は地方公営企業会計制度の改正に伴い、給与関係費の引当金が190万8千円（皆増）増加したことや、委託料についても43万3千円（9.0%）増加となったことにより費用全体では増加した。

## 3 供給単価及び給水原価

供給単価及び給水原価の推移は次表のとおりである。



#### 4 有収水量の推移



有収水量については、前年度に比べて 3,149 m<sup>3</sup> (0.3%) 増加し、115 万 2,907 m<sup>3</sup> となり、10 年ぶりに前年度を上回っている。

#### 第4 財政状態について

当年度の貸借対照表を前年度と比較すると次表のとおりである。

##### 貸借対照表前年度比較

(単位:千円、%)

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
固定資産	1,065,946	1,069,158	3,212	0.3
有形固定資産	1,045,501	1,048,947	3,446	0.3
土地	145,535	145,535	0	0.0
建物	62,334	61,496	△ 838	△ 1.3
構築物	797,229	808,560	11,331	1.4
機械及び運搬具	21,070	23,205	2,135	10.1
工具器具及び備品	2,273	1,659	△ 614	△ 27.0
建設仮勘定	17,060	8,492	△ 8,568	△ 50.2
無形固定資産	447	213	△ 234	△ 52.3
施設利用権	447	213	△ 234	△ 52.3
投資	19,998	19,998	0	0.0
投資有価証券	19,998	19,998	0	0.0
流動資産	212,496	226,489	13,993	6.6
現金預金	189,155	202,169	13,014	6.9
未収金	22,491	23,584	1,093	4.9
貯蔵品	850	736	△ 114	△ 13.4
資産合計	1,278,442	1,295,647	17,205	1.3

(単位：千円、%)

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額	増減率
固定負債	9,088	8,076	△ 1,012	△ 11.1
引当金	9,088	8,076	△ 1,012	△ 11.1
退職給付引当金	-	557	557	皆増
賞与引当金	-	1,318	1,318	皆増
法定福利費引当金	-	223	223	皆増
修繕引当金	9,088	5,978	△ 3,110	△ 34.2
流動負債	4,899	14,955	10,056	205.3
未払金	1,592	11,635	10,043	630.8
前受・預り金	3,307	3,320	13	0.4
繰延収益	4,899	129,509	124,610	2,543.6
長期前受金	-	337,878	337,878	皆増
収益化累計額	-	△ 208,369	△ 208,369	皆増
負債合計	4,899	152,540	147,641	3,013.7
資本金	677,370	677,370	0	0.0
自己資本金	677,370	677,370	0	0.0
剰余金	587,085	465,736	△ 121,349	△ 20.7
資本剰余金	374,150	40,572	△ 333,578	△ 89.2
国庫補助金	4,857	0	△ 4,857	皆減
工事負担金	73,202	37,703	△ 35,499	△ 48.5
他会計負担金	258,819	2,869	△ 255,950	△ 98.9
受贈財産評価額	37,272	0	△ 37,272	皆減
利益剰余金	212,935	425,164	212,229	99.7
利益積立金	24,121	24,121	0	0.0
建設改良積立金	127,588	127,588	0	0.0
当年度未処分利益剰余金	61,226	66,175	4,949	8.1
処分済利益剰余金収益化移行処理額	-	207,280	207,280	皆増
資本合計	1,264,455	1,143,107	△ 121,348	△ 9.6
負債・資本合計	1,269,354	1,295,647	26,293	2.1

□については、26年度の地方公営企業会計制度の改正に伴い、26年度に新たに振替を行った会計基準の見直し項目である。

## 1 資産

当年度の資産合計は、前年度に比べて1,720万5千円（1.3%）増加し、12億9,564万7千円となった。

固定資産は、前年度に比べて321万2千円（0.3%）増加し、10億6,915万8千円となった。

流動資産は、前年度に比べて1,399万3千円（6.6%）増加し、2億2,648万9千円となった。

なお、水道料金の収入未済額は1,969万2千円で収納率は89.1%となっている。

水道料金に係る収納状況の内訳は次表のとおりである。なお、87万3千円の不納欠損処理が行われた。

水道料金収納状況表

(単位:千円、%)

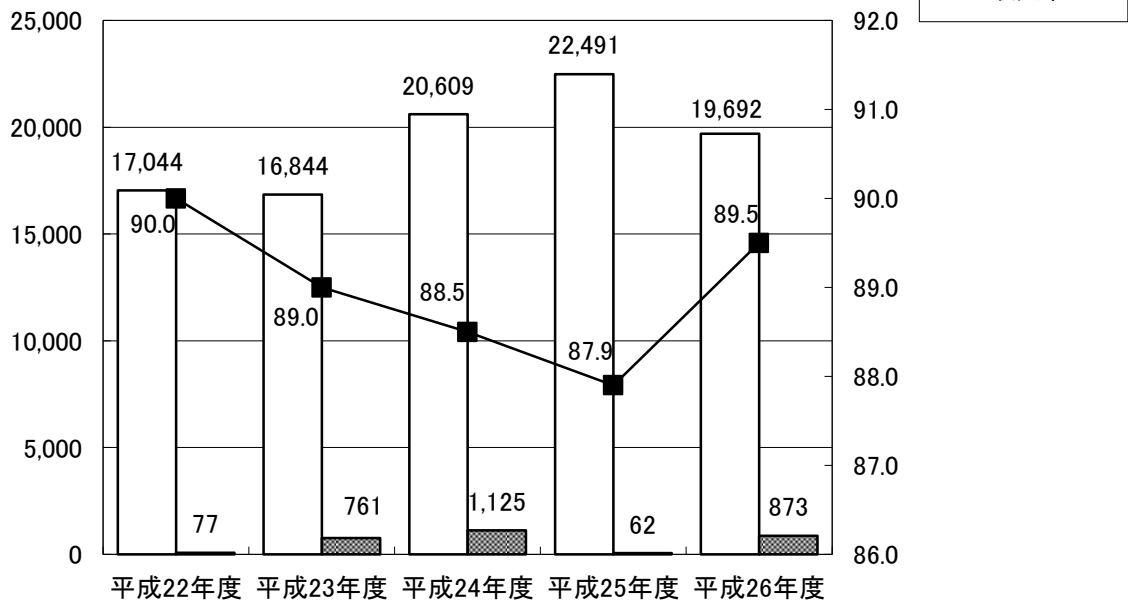
区分	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収納率
25	現年度	165,893 ( 148,252 )	144,295 0	21,598 ( 17,641 )	87.0 ( 89.4 )
	過年度	20,657	19,702	893	95.4
	計	186,550 ( 167,954 )	163,997 62	22,491 ( 18,534 )	87.9 ( 90.0 )
26	現年度	166,397 ( 150,052 )	146,717	19,680 ( 16,345 )	88.2 ( 90.2 )
	過年度	22,085	21,200	873	96.0
	計	188,482 ( 171,252 )	167,917 873	19,692 ( 16,357 )	89.1 ( 90.9 )
比較	現年度	△ 504 ( 1,800 )	2,422 0	△ 1,918 ( △ 1,296 )	-
	過年度	△ 1,428	1,498	811	△ 881
	計	△ 1,932 ( 3,298 )	3,920 811	△ 2,799 ( △ 2,177 )	-

※注意:( )欄の数値は、4月1日付け口座振替収納分を含む数値

収入未済額・不納欠損と収入率の推移

(単位:千円)

(単位:%)



## 2 負債・資本

当年度の負債合計は前年度に比べて1億4,764万1千円（3013.7%）と大幅に増加し、1億5,254万円となった。また、資本合計は前年度に比べて1億2,134万8千円（9.6%）減少し、11億4,310万7千円となった。このような多額の増減が生じた理由は、26年度の地方公営企業会計制度の改正により、資本の部の「資本余剰金」が、負債の「繰延収益」勘定に移行されたことによるものである。

固定負債は、前年度と比べて101万2千円（11.1%）減少し、807万6千円となった。

流動負債は、前年度に比べて1,005万6千円（205.3%）増加し、1,495万5千円となった。これは主に、工事費等に係る未払金1,004万3千円が増加したことなどによるものである。

当年度の資本合計は、前年度に比べて1億2,134万8千円（9.6%）減少し、11億4,310万7千円となった。

## 第5 審査のまとめ

### 1 決算の総括

営業収益は、有収水量の減などにより前年度に比べて339万2千円（2.1%）減少し1億5,602万1千円となり、当年度純利益は、前年度に比べて4万1千円（0.4%）減少し、1,090万2千円となっている。

当年度の収益については、節水意識の高まりや大口使用者である旅館等の倒産・廃業等があったものの、新幹線金沢開業の波及効果もあり、有収水量は若干増加した。費用についても、配水及び給水量が減少したものの前年度並みに推移し、その結果、経常利益は前年度に比べ256万5千円増加した。

経営を取り巻く環境は、年々老朽化が進む水道施設の修繕や更新等に係る経費の増加が見込まれる上、経営の基本である給水収益についても、旅館等大口使用者の需要減や節水意識の高まりによる有収水量の減少が予想され、増収を見込むのは難しい状況である。

### 2 審査意見

(1)24年度の料金改定後3年続けての黒字確保となっているが、給水区域内の人口や有収水量の減少が続いており、給水収益は下降傾向にある。一方、26年度の新幹線金沢開業により、旅館等の利用者が増加傾向になるなど明るい兆しもある。

今後も給水量の推移を注視しながら、更なる経費の節減に努める等、一層の経営努力を望むものである。

(2) 水道事業は、市民生活の中でも最も重要なライフラインの一つであるが、安定供給、安全な水質の確保、地震等災害時の危機管理などの基本的な課題に加えて、区域内の人口減少や施設の老朽化に伴う修繕及び更新の必要性などの経営に関わる課題にも直面している。中長期視点に立ってこれらの課題への対応を検討されたい。